

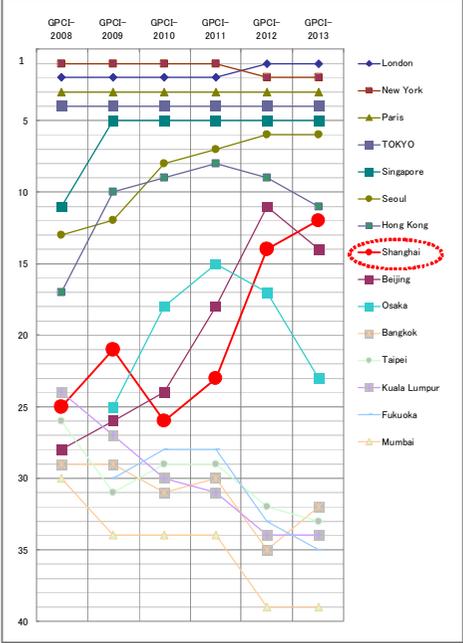
# <参考資料> 急激な発展を遂げる上海(世界都市総合ランキングおよび上海市主要エリアマップ)

「世界都市総合ランキング」(森記念財団発表)によると、世界を代表する40主要都市のうち上海の順位は、この5年間で25位から12位まで急上昇しています。特に「経済」「文化・交流」および「アクセス」分野における成長が著しく、アジアの中においても最も勢いのある都市の一つです。

■上海市の主要指標(2012年)

<b>人口・面積</b>	
人口	23,019 千人
面積	6,341 km <sup>2</sup>
人口密度	3,630 人 / km <sup>2</sup>
<b>経済</b>	
GDP	2,969 億ドル
一人当たりGDP	11,238 ドル
GDP成長率	11%
世界トップ300企業数	2 社
法人税率	25%
<b>研究・開発</b>	
世界トップ200大学数	0校
<b>文化・交流</b>	
外国人居住者数	162,500 人
海外からの訪問者数	6,656 千人
留学生数	17,300 人
<b>居住</b>	
賃貸住宅平均賃料	1,230 ドル / 月
物価水準(対ニューヨーク)	70%
<b>交通・アクセス</b>	
都心から国際空港までのアクセス時間	40 分
国際線直行便就航都市数	72 都市
国際線旅客数	15,071 千人
滑走路本数	5 本
公共交通(地下鉄)の駅密度	1 駅 / km <sup>2</sup>

■ランキング上位4都市とアジア諸都市の推移



現在、上海環球金融中心に隣接する「上海中心」(2014年竣工予定)の建設も着々と進み、完成後には、上海環球金融中心、金茂大廈と並ぶ陸家嘴金融貿易中心区を代表する超高層ビルとなります。このたびのペデストリアンデッキ開通など、地域インフラの整備も進捗、本年9月には、中国政府が、金融、投資、貿易分野の大胆な規制緩和を進める「中国(上海)自由貿易試験区」を開設、かつての改革・開放時代を先導した「経済特区」モデルの再現を狙う試みとして世界に大きく注目されています。中国における金融対外開放が着実に進むなか、中国経済の中心を担う都市として、上海のさらなる発展が予測されます。



## <上海の「世界都市総合ランキング」上昇の主な要因>

- ・2008年の調査開始以降、20~25位前後で推移していたが、2012年は14位、2013年には12位へと躍進。
- ・11%を越えるGDP成長率や、東京、ニューヨーク、ロンドンに次ぐGDP、世界有数の人口規模などにより、「経済」分野は高い評価。
- ・上海万博(2010年)受入に伴う、宿泊施設の拡充、上海虹橋空港の新滑走路と第2ターミナルの供用開始、虹橋空港と浦東空港間の地下鉄開通等に代表される交通インフラの整備等が、「文化・交流」「交通・アクセス」のスコア上昇に貢献。
- ・なかでも「交通・アクセス」分野は「国際交通ネットワーク」「交通利便性」の評価が高い。2020年に地下鉄路線が2010年の2倍(全長約970km)に整備される計画が立てられており、さらなるスコア上昇が予測される。

※都市総合ランキングとは… 一般財団法人森記念財団 都市戦略研究所(所長:竹中平蔵)が、2008年より世界の主要都市を対象に、都市の総合力をランク付けするもの。主要40都市を選定し、都市の力を表す主要な6分野(経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセス)と、さらに現代の都市活動を牽引する4つのグローバル・アクター(「経営者」「研究者」「アーティスト」「観光客」)ならびに都市の「生活者」という5つのアクターの視点に基づき、複眼的に都市の総合力を評価している。



浦西から望む陸家嘴金融貿易中心区(2013年10月撮影)